

広報九州



国民の森林・国有林

令和3年12月10日
(2021年)

No.1798

九州森林管理局

〒860-0081
熊本市西区京町本丁2-7
IP電話:050-3160-6600(代表)
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

森林・林業の技術交流発表大会を開催

11月25・26日の両日に渡り、くまもと県民交流館パレアにおいて「令和3年度森林・林業の技術交流発表大会」を開催し、九州各県の森林・林業関係者や森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など約300人が参加しました。

発表大会では、それぞれの地域で取り組んでいる再造林の低コスト化、早生樹の取組、林業担い手の確保への取組、シカ被害対策、地域材を利用した復興活動など26課題（一般の部21課題・高校生の部5課題）の発表がありました。

この発表大会は九州林政連絡協議会が主催し、産学官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表し、技術の交流や情報交換を行うことにより、森林・林業の活性化を図ることを目的に開催しているもので、今回で27回目となります。

1日目は、同協議会会長



挨拶される小島会長

の当局小島孝文局長より、「昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大影響によるウツドショック、大雨や台風等により毎年発生する山地災害、主伐後の確実な再造林の確保及びシカ被害対策など依然として難しい課題が山積しており、こうした課題を一つ一つ解決していくためには、研究者などによる最新の科学的知見を集積した新たな技術開発などが大変重要である。また、



発表の状況（パレアホール会場）

現場第一線で活躍する技術者の皆様や、次世代の森林・林業を担っていく学生・生徒の皆さんは、日常の業務や勉強の中で見つけた課題を整理し発表することは大変大切なことである。自己研鑽の場、交流の場として活用するとともに森林・林業、木材産業の発展を心から祈念する」と挨拶がありました。



発表の状況（会議室1会場）

その後、「森林技術部門」と「森林保全部門・森林ふれあい部門」の2会場に分かれ一般の部21課題の発表を行いました。

2日目は、九州森林管理局と連携協定を結んでいる5大学のうち熊本県立大学、宮崎大学、九州大学による研究成果の特別発表と高校生の部5課題（大分県1校・熊本県4校）の発表を2会場に分かれて行いました。

最後に審査委員長の（国研）森林総合研究所九州支所 塔村真一郎所長より各発表について審査講評があった後、九州林政連絡協議会会長賞（一般の部・最優秀賞2課題、優秀

賞4課題）及び九州森林管理局長賞（高校生部の部・最優秀賞1課題、優秀賞2課題）の発表があり受賞者へ表彰状を授与し、2日間に渡る発表大会を終了しました。

（担当）技術普及課

26課題の中から評価の高かった一般の部・題・高校生の部・課題を表彰

令和3年度森林・林業の技術交流発表大会において、受賞された課題と発表者は次のとおりです。

【一般の部】
九州林政連絡協議会会長賞
最優秀賞（2課題）
☆機械下刈りを前提とした新たな植栽配置の検討
大分県林務管理課
小関 崇
大分県西部振興局
宮崎 恵輔
久大林産株式会社
工藤 洋一
☆ICTを利用したシカ捕獲について（経過報告）
大分西部森林管理署

日田 仁志
川原 博
井上 欣勇
浅田 実穂
伊藤 明雄

優秀賞（4課題）

◎宮崎県西臼杵地域の伐採届出制度
宮崎県西臼杵支庁

井上 聡史
鳥越 まゆ

◎現場業務の効率化
宮崎森林管理署
都城支署

坂本 徹也
石綿 深志

◎林業事業者の業務ICT化に向けた取組
業務効率化から拡がる林業成長産業化

福岡県福岡農林事務所
酒谷 賢毅

◎ハートマークの桜の記念植樹による地域貢献
新型コロナ禍での取組

熊本森林管理署
濱田 祥吾

大瀬 敦也

塩澤 翔

【高校生の部】

最優秀賞（1課題）

☆「もっと」木育！

「がんばろう！人吉・球磨！」
地域資源を活用した、人々の心に寄り添う復興支援活動の継続と展望

熊本県立南陵高等学校

星原 幸生

平川 一樹

高田 翔真

福田 明純

蓑田 志織

平野 秀太郎

濱崎 煌

優秀賞（2課題）

◎泉厄介者を地域の宝へ
高校生ハンターの捕獲から加工への挑戦

熊本県立八代農業高等学校

泉分校

赤星 翔

加世堂 孟

塩田 大

廣岡 風香

◎目指せ！林業ハンター
地域と共に森を守る

熊本県立芦北高等学校

高嶋 奈々華

大崎 匠

高田 皇子朗

竹本 航

山本 璃斗



式典で挨拶される小島局長（徳之島）

豊見城市で盛大に開催されました。

徳之島記念式典には、鹿児島県副知事はじめ地元市町村長、森山衆議院議員、県議会議長及び関係行政機関等約110名程度が参加しました。来賓挨拶では、環境省奥田自然環境局長からの挨拶の後、天羽隆林野庁長官の代理として小島孝文九州森林管理局長から、一本局の自然遺産地域に係るこれまでの取組、

『世界自然遺産登録記念式典』が開催される
鹿兒島県徳之島及び沖縄県

11月13日、鹿児島県主催による記念式典が鹿児島県徳之島において、11月19日には、沖縄県主催による記念式典が

遺産地域に占める国有林野の管理等についての説明及び地域の皆様方のご理解ご協力に敬意を表するとともに、今後

小島会長と受賞された皆さん





地元小学生からメッセージ（沖縄県）

最後には、遺産地域の地元小学校から募集した優秀作品への表彰が行われ、後世に健全な状態で引き継いでいくことが確認されました。

両式典開催の最後には、記念式典横断幕のもと関係者等の方々に参加され、記念撮影が行われ記念の行事が終了しました。

（担当＝計画課）



式典後の記念撮影

後には、世界遺産認定証授与（レプリカ）が環境省奥田局長から関係市町村長へ授与されました。また、仲間由紀恵氏など芸能界の方5名に世界自然遺産大使としての任命書の授与が行われるなど多数のプログラムが組まれており、

沖縄県の素晴らしい自然の価値を損なわないよう沖縄県の今後の発展を願う。当局としても引き続き適切な保護や管理に努めて参りたいとの挨拶のあと、林野庁長官からの祝辞を代読されました。その後には、世界遺産認定証授与（レプリカ）が環境省奥田局長から関係市町村長へ授与されました。また、仲間由紀恵氏など芸能界の方5名に世界自然遺産大使としての任命書の授与が行われるなど多数のプログラムが組まれており、

も適切な保護・管理に努めていきたい」との挨拶のあと、林野庁長官からの祝辞を代読されました。

沖縄県の式典では、関係市町村長、地元選出の国会議員

及び自然遺産推進共同企業体、関係行政機関、多数の関係者等約150名が参加しました。来賓挨拶では、小島孝文九州森林管理局长から、「地域の皆様方のご理解ご協力に敬意を表するとともに、沖縄県北部及び西表島をはじめとする沖縄県の素晴らしい自然の価値を損なわないよう沖縄県の今後の発展を願う。当局としても引き続き適切な保護や管理に努めて参りたいとの挨拶のあと、林野庁長官からの祝辞を代読されました。その後には、世界遺産認定証授与（レプリカ）が環境省奥田局長から関係市町村長へ授与されました。また、仲間由紀恵氏など芸能界の方5名に世界自然遺産大使としての任命書の授与が行われるなど多数のプログラムが組まれており、

熊本県ブロック市町村有志協議会を開催

【熊本森林管理署・熊本南部森林管理署】

11月8日、九州森林管理局大会議室において、国有林・官行造林が所在する熊本県内の市町村長等、川畑充郎熊本森林管理署長及び赤星良治熊本南部森林管理署長ほか関係者、小島孝文九州森林管理局长をはじめ局幹部及び関係者、来賓として大岩禎一熊本県農林水産部森林局长を迎え、令和3年度の熊本県ブロック



挨拶される小島局长

国有林野等所在市町村長有志協議会を総勢57名で開催しました。

会議は内村圭一総括地域林政調整官の司会進行により、代表世話人である竹崎一成芦北町長、小島局长、大岩森林局长から挨拶を頂き、竹崎町長を座長に議事進行して頂きました。

議事では、九州森林管理局からの情報提供として一重喬一郎企画調整課長から新たな森林・林業基本計画の策定、公共建築物等木材利用促進法の改正、令和4年度の林野関係予算概算要求の概要、令和3年度の九州森林管理局重点取組事項について、次に森林



挨拶される竹崎芦北町長

続いて、市町村からの提起・要望事項として事前に頂いていたシカ被害対策に対する森林環境譲与税を活用した取組事例、併用林道の復旧について管轄する赤星良治署長が回答・説明するとともに、意見交換の中では草原の野焼き時における保安林解除の迅速化や太陽光発電など大規模開発への規制の必要性、今後の木材価格の動向や都市部における中高層木造建築物の状況、流域治水における国有林の方



活発な意見交換が行われた有志協議会

針等についての意見・要望が出され、活発な意見交換を行いました。

熊本県内においては、コロナ禍の中、昨年の令和2年7月豪雨等で多くの市町村が被災されていますが、熊本及び熊本南部森林管理署としては、引き続き関係市町村との連携・協力を深め被災地の復旧と県内の森林・林業・木材産業の活性化に向けて取り組んでいく考えです。

「三保松原保全研究所」の職員が虹の松原を視察

【佐賀森林管理署】

11月26日、一般財団法人三保松原保全研究所の佐野事務局長、澤野技術課長、山下技術課長補佐の3名が、虹の松原（唐津市）の保全管理の取組について現地視察及び意見交換を行うため来署されました。同研究所は、三保松原（静岡市）がユネスコの世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産に登録されたことから、三保松原の保全管理のための拠点となる組織として、令和元年



説明する志戸森林官と研究所の方々

6月に設立されました。

はじめに、唐津市鏡山展望台から虹の松原を遠望し、植薄和彦地域林政調整官より、虹の松原は唐津藩初代藩主寺沢広高氏が植栽を命じて造成され、今日まで受け継がれてきた沿革について説明を行い、続いて佐藤昭晴総括森林整備官、志戸祐二森林官より、小さい虫被害の推移と被害対策の取組について説明した後、現地を視察しました。

その後、研究所職員と佐賀森林管理署において松原の保全管理の取組について意見交換を行いました。意見交換では、日常業務の林野巡視に加え、関係機関・団体・地元住民等の御理解と御協力を得な



鏡山展望台より虹の松原を遠望

から連携した保全管理が重要であることを共有しました。

最後に、佐野事務局長から、「今回の視察で説明いただいたことを、三保松原の保全対策に活かした取組に繋がってほしい。また、今後も佐賀森林管理署との情報交換を引き続きお願いしたい。」と挨拶がありました。当署としても、引き続き情報共有しながら松原の保全に取り組んで行くこととしました。

みどりのトンネル 育樹祭を開催

【都城支署】

10月29日に小林市からえびの高原に通ずる「県道1号線（県道小林えびの高原牧園線）の育樹祭が開催されました。県道1号線の沿線に広葉樹を植栽し四季を彩る観光幹線道路（緑のトンネル）としての再生を図るため、当該箇所の国有林に平成12年から個人・団体からの協力を得ながら、ヤマザクラ、カエデ、ケヤキなどの植栽を始め、下刈りなどの保育作業などを行っており、秋の紅葉シーズンを迎えるに当たり、沿道の清掃活動と緑化思想の普及促進を図ることを目的に行われ、今回が第21回目の育樹祭の開催となりました。

当日は生駒高原駐車場に集合し、トンネル推進協議会長並びに小林市長の挨拶、作業の注意事項の説明、参加者全員による記念撮影が行われた後、団体毎に割り振られた作業箇所へ移動し作業を行いました。



造林鎌で作業する職員

森林事務所職員3名、計7名が参加し、晴天の下で造林鎌により力ヤなどの刈払い作業を実施しました。

技術交流発表大会に参加

☆優秀賞を受賞

【熊本森林管理署】

令和3年度の森林・林業の技術交流発表大会が11月25日と26日に開催され、当署から濱田祥吾森林整備官、大瀬敦也技官と塩澤翔技官の3名が、「ハートマーク」桜の記念植樹による地域貢献く新型コ



発表大会の状況



リハーサルの状況



受賞後の記念撮影

ナ禍での取組」と題して、当署が本年2月14日のバレンタインデーに、コロナ禍で結婚式を挙げられなかったカップル等に参加してもらい開催した桜の植樹イベントについて、取組の経過や今後の展望

等をとりまとめ発表しました。当署では、発表大会に先立ち11月17日にリハーサルを署会議室において開催し、本番さながらに発表時間、発表態度などをチェックするとともに、参加者からスライドや発表内容について適切なアドバイスや質問が出され、本番に向けて有意義なりハーサルとなりました。なお、発表大会の結果は、九州林政連絡協議会長賞・優秀賞を見事受賞し、発表した職員たちの努力が実を結びとともに、当署としても昨年度に署全体で取り組んだ植樹イベントのものを発表する良い機会となりました。

防災避難訓練にて 防災講話を実施

【長崎森林管理署】

11月7日、島原市主催の防災避難訓練が市内3地区12箇所にて開催されました。

今回の避難訓練は、マグニチュード7規模の地震が島原半島で発生したとの想定のもと行われ、長崎森林管理署からも治山グループ4名が参加し、避難所の一つである島原市立第2小学校グラウンドにおいて、628名の参加者の中から小学生を対象に防災講話を行いました。

測上翔吾治山技術官による講話では対象者が小学生であることを考慮し、校庭から間近に見える眉山の治山事業について、治山ダム役割やヘリコプターによる種子散布を行い緑化を図っている事等について、クイズを交えながら分かり易く説明を行いました。クイズでは、眉山の治山事業は約100年前から実施していること、また、設置した治山施設が100基以上である



眉山を見ながら講話



クイズに答える生徒の皆さん

ることに驚きの歓声が上がりました。

中でも「治山」という言葉を聞いたことがあるかと尋ねたところ約1割の児童が挙手するなど、これまで私たちが住民説明会を始め様々な場面で眉山の治山事業をPRしている成果が現れていると確信しました。

後半は、災害時等に使用するドローンのデモ飛行を行い、小学生たちは興味津々で、防災講話は好評を得ました。

長崎森林管理署では今後あらゆる機会を捉え、島原市民の安全・安心のために治山事業が果たしている役割についてPRに務めて参ります。

西表小中学校 「秋みつけ」を支援

【沖縄森林管理署・西表森林生態系保全センター】

11月10日、西表島の西表国有林において、西表小中学校小学部の行事「秋みつけ」が開催され、児童19名、教諭5名の参加があり、沖縄森林管理署租納森林事務所と西表森林生態系保全センターの職員が講師として参加しました。この行事は、日本で一番大きいドングリが実るオキナワウラジロガシのドングリを拾うことや、植物や生き物を観



元気いっぱいの子供たち



秋をみつけるのに一生懸命

察して、子供たちの自然に親しむ心を育み、山の散策を通して自然に親しみながら、季節の変化に気づくことが目的です。

山に入る前に小崎凌平森林官から、オキナワウラジロガシの説明や、世界最大の豆と言われているモダマを実物のサヤや種を見せながら紹介し、西表島の自然の魅力を伝えました。その後、山を歩く時の注意事項の説明をして秋を探しに山に入りました。

天候に恵まれて心地よい環境の中で、ドングリ拾いや、山にいる生き物や植物を観察することができました。子供たちはドングリだけでなく初

めて見る不思議な葉っぱや葛にも興味津々で、楽しく自然と触れ合うことができています。

その後、展望台へと移動し森林官、センター職員による森林教室を開催。互生、対生等の葉っぱの付き方の説明を行ったり、「花に雄しべと雌しべがあるように木にもありますか」、「樹液はなぜ出ますか」などの子供たちの疑問に答えました。子供たちの手を挙げて明るく積極的に対応して貰えてくれる姿がとても印象的でした。

最後に、展望台からの景色を眺めながらお弁当を食べてゆっくり下山しました。けが

人が出ることもなく無事にそれぞれ「秋」をみつけることができました。

船浦中学校及び大原中学校三大行事「西表島横断」を支援

【沖縄森林管理署・西表森林生態系保全センター】

10月30日に船浦中学校、11月13日に大原中学校の三大行事「西表島横断」を支援しました。

この西表島横断は、郷土理解を図り、たくましく生きる力を身につける。助け合う心、励まし合う心を育て協調性を養い、同時に目標達成のための忍耐力を養う。協力してくれた方々を通して感謝の心を育む。西表島の自然について理解を深め、自然への畏敬の念や保護する心を育てることを目的としており、当センターが作成した西表島での自然環境教育カリキュラムのプログラムの一つでもあります。

当日は、関係者を含め船浦中学校総勢91名、大原中学校総勢77名が西表島横断に挑戦し、10月30日、11月13日とも



大原中学校の生徒と関係者

昼食後は難所が連続しますが、生徒達は難所もどこ吹く風で途中、急傾斜地や岩場など足場の悪いところではお互いが声を掛け合うなど一生懸命でした。

生徒達は、滑ったり転んだりしながらも12・2kmの道のりを約8時間半から9時間半かけて無事



船浦中学校の生徒と関係者

に曇り空の下、時折霧雨が降りましたが、暑すぎず寒すぎず絶好の横断日和となりました。

夜も明けきれない時間から浦内川河口に集合し、出発式を行った後に、遊覧船で出発し軍艦岩に到着、各班に分かれて出発し、いよいよ西表島横断の開始です。軍艦岩からゴールの大富口まで12・2kmの険しい道のりを途中、マリウドウの滝、カンピレーの滝を眺めながら順調に進み、イタチキ川合流地点で各班それぞれに楽しい昼食を取りました。

踏破し、一生の思い出になったようです。

解散式では、最初はゴール出来るか不安だったがゴール出来た達成感や保護者をはじめ地域の方々への感謝の言葉を述べる生徒代表の挨拶がとても印象的でした。

沖繩森林管理署、西表森林生態系保全センターは今後も学校の伝統行事など積極的に協力・支援してきます。

「インターシップを受け入れました」

【大分西部森林管理署】

10月19日から20日の2日間にわたり、大分県立日田林工高等学校が教育活動の一環として行っているインターシップで林業科2年生の生徒さん2名を受け入れました。

初日、津協晋嗣署長から署長室において当署の管内概要等の説明、その後、会議室にて森本明次長から林野庁の業務内容、林業を取り巻く情勢や課題の説明を受けた後、若手職員から現在行っている仕事の内容や学生時代に行っ



概要等を説明する津協署長

きた受験対策のアドバイス等を中心に意見交換を行いました。

午後からは、昨年7月豪雨で被害が甚大であった九重山治山災害復旧工事箇所に移動して、田上誠総括治山技術官から、UAV（無人航空機）を活用しながら治山ダム群とその保全対象を望み、治山事業の内容や効果等の説明を行いました。

二日目は、別府市十文字原の保育間伐活用型事業箇所に移動して、白坂進総括森林整備官等から、森林整備事業の説明を聞きながら、チェーンソーでの伐倒、高性能林業機械による伐倒や採材の作業状



実際の作業状況を目にする生徒さん

況を実際に目にして頂きました。

午後からは、日田仁志森林技術指導官から、長距離無線式捕獲パトロールシステム「ほかパト」のICT（情報通信技術）を活用したシカ捕獲の説明を行い、玖珠森林事務所川原博首席森林官等から8年生の造林地内において深刻なシカ被害により生育不良の造林木を目の当たりにして有害鳥獣捕獲の重要性について意見交換を行いました。

署に戻って、二日間の内容を振り返って頂き、生徒さんからは「林野庁の仕事は幅広くその仕組みが理解できた。事業を行うにあたっては安全第

一である。令和2年7月豪雨災害の現場を見せて頂いたが見えない努力と治山の大事さを知った。シカ被害をくい止めるためにも新たな対策の必要性を感じた。将来に向けて森林の多様性のアピールは大切と感じた。」との感想を頂きました。

生徒さんには、今回の就業体験実習を通じ、森林・林業・木材産業に関心を持って頂き、今後の進路に活かされることを期待するところです。



紙芝居を鑑賞する生徒さん

猪八重の滝風景林で森林環境教育を実施

【宮崎南部森林管理署】

11月18日、日南市立瀨上小学校の5年生18名を対象に「森林セラピー基地」及び「日本の貴重なコケの森」等に認定されている猪八重の滝風景林において、森林環境教育を行いました。

この森林環境教育は、猪八重渓谷の自然散策を通して、森林の持つ保水環境やその機能の有効性を体験的に学ばせることで、それらの大切さを

知り、それを守っていくこうとする人々の活動の素晴らしさを実感させ、郷土への理解を深めるとともに郷土への誇りと愛情を育てることを目的に開催されたものです。

当日は、先ず森正文森林技術指導官から森林の持つ保水機能、山地災害防止機能、地球温暖化防止機能などについて説明、その後、田村舞・濱本桜両技官による紙芝居「森林からのおくりもの」を鑑賞したあと、「北郷森林ガイドいっつの木」の永井ミツ子会長外3名の案内で猪八重渓谷を約1.7km散策しました。

猪八重渓谷では、コケの観察スポットでシラガゴケやヒ



学習の森で記念撮影

三ツ岩保護林、林分密度試験林で勉強会

(都城地区木材青壮年会)

【宮崎南部森林管理署】

10月16日に都城地区木材青壮年会の10月例会(勉強会)が、当署の三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林と林分密度試験林で開催され、会員18名と都城市役所から1名が参加されました。

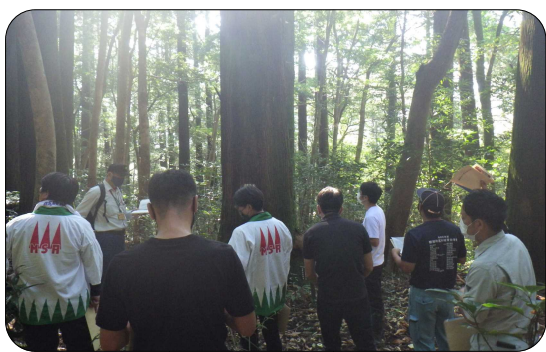
福岡県史署長から「都城木青会におかれては、木育イベントや普及啓発活動等に取り組んでおられ、地域の皆さんが参加されました。」

関心の高まりにつながっておりご尽力に感謝いたします」と挨拶がありました。

続いて、森正文森林技術指導官から三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林の概要(沿革、現況)を説明後、巨木の林内を散策しながら肥料林業の歴史、肥料杉の品種・特徴等を説明しました。

その後、林分密度試験林に移動し、設定目的・設定方法等の説明後、円形試験地の中心地まで歩き、中心上空の空間の様子、植栽密度による径級の違いや下層植生の繁茂状況の違い等を確認しました。

会員からは、三ツ岩保護林は今後伐採を考えているのか、



三ツ岩保護林で説明を受ける参加者



林分密度試験林の中心で記念撮影

フォレストリーダー研修の開催

【鹿児島森林管理署】

10月25日、霧島市溝辺公民館において、鹿児島県林業労働力確保支援センター主催による「令和3年度現場技能者キャリアアップ対策に係るフォレストリーダー研修」が開催され、片山恵介総括森林整備官が講師を務めました。

この研修は、林業の持続的かつ健全な発展を図り、成長産業化を実現す

るためには、施業集約化等の推進、低コストで効率的な作業システムによる施業の実施とともに、これを担う人材の確保・育成・キャリアアップが求められており、効率的な現場作業を主導することのできる現場管理責任者(フォレストリーダー)及び統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)を育成するためのキャリアアップ研修として実施され、県内の森林組合や事業体職員16名が参加しました。

研修は1週間を通して行われ、国や鹿児島県、鹿児島大学及び森林組合などが日替わりで講師を務めました。当署では「素材生産等における作



講師の片山総括森林整備官と研修生

ツジゴケなどを手で触り、コケの柔らかい感触や約7,300年前に爆発して積もった火山灰を確かめました。また、遊歩道沿いでは、水力発電所の水タンクや井堰の跡、トロッコ列車の軌道跡など歴史的にも貴重な遺産に直接触れ、森林が持つ多くの機能や自然の素晴らしさを肌で感じてもらえたものと思います。

当署は、今後も地域と連携しながら、保護林やレクリエーションの森を活用して自然の大切さを広めていく取組を進めていく考えです。

業工程、コスト構造、仕様を理解し、コスト把握に必要な知識・技能の習得」を目的に実施し、各種作業仕様書の説明や請負事業を進めるに当たったの現場代理人としての心構えなどについて講義を行いました。

令和3年度みやざきの 林業省力化推進モデル 事業現地研修会

【宮崎北部森林管理署】

11月12日、美郷町において、「みやざきの林業省力化推進モデル事業」現地研修会が開催されました。

当日は、宮崎県北の関係機関から約30名が参加し、当署からは、岩下正斉森林整備官（森林育成）、枘田明莉森林整備官補、高橋陽介職員が3名が参加しました。

「みやざきの林業省力化推進モデル事業」は宮崎県山村・木材振興課によるドローン等による森林のレーザー計測で得られた高精度森林情報と従来の方法による実測データを比較検証するとともに、その情報を活用した省力化機械等



多目的造林機械の「山もつとモット」



説明と実演の様子

による造林・下刈のプラン作成や作業の実証を行い、森林作業の省力化・軽労化を図ることを目的に宮崎県森林組合連合会が事業委託を受け令和2年度から令和3年度までの2カ年において行われている事業です。

当日は省力化機械による造林・下刈作業の実証として株式会社筑水キャニコムによる多目的造林機械「山もつとモット」の下刈作業・伐根粉碎の実演が行われました。

「山もつとモット」は、平成30年度林野庁補助事業の支援を受け開発されました。「山もつとモット」の導入で、

人力作業の削減により危険リスクの低減や下刈りの効率化の向上が期待されますが、機械幅に合わせた植栽が必要になる、作業できる傾斜角で造林地の何パーセントを作業できるか分からない、トータルでの採算性などの課題もあります。そのため造林地の地形や傾斜等の詳細なデータを元にプランニングが必要になると担当者から説明がありました。

説明終了後、質疑応答の間には数名の参加者から運用やメンテナンスについての質問があり、現地研修会を終了しました。

なお、今回の最大の参加目的であった「大型ドローン地形追従フライト実演」については、残念ながら時間の関係で次の機会となりました

鹿川海岸清掃に参加

【西表森林生態系保全センター】

10月20日、八重山地区の海洋環境保全推進活動を行う団体「八重山環境ネットワーク」の主催で、2019年10月以来2年ぶりとなる鹿川海岸のビーチクリーン活動が開催され、西表森林生態系保全センター職員2名が参加しました。

鹿川海岸は、西表島の中でも一般的に船舶でしか行くことができないことから、石垣、西表（東部・西部）地区から計33名が備船にて上陸し、クリーン活動を実施しました。同海岸を訪れる人は少ないですが、



回収した漂着ゴミを前に記念撮影
(写真提供：環境省西表自然保護官事務所)

ウミガメの産卵地として知られており、海から向かって左側が民有地、右側が国有林となっています。今回は潮流の関係で漂着ゴミが多かった左側の民有地を重点的に清掃しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からクリーン活動を実施することが出来なかったため、例年よりも漂着ゴミが多く溜まっており、回収しきれなかったゴミも沢山ありましたが、参加者は限られた時間の中で

精一杯クリーン活動を実施し、ゴミ袋（45袋）約150袋分の漂着ゴミを回収することができました。

50001#

枇榔島のトウチク駆除

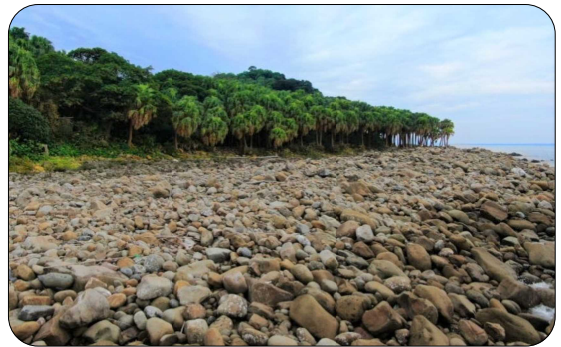
【大隅森林管理署】

当署の志布志森林事務所管内には、唯一の島である「枇榔島（びろうじま）」を管轄しています。

志布志港から約4kmの沖合の志布志湾のほぼ中央にある島で、島の周囲は約4km、面積は17.8畝、最高地点の標高は83mであり昭和天皇の「行幸の碑」があります。「枇榔島」にはその名前のとおり、樹齢300年〜400年に及ぶビロウ【ヤシ科の常緑高木】の古木が密生しており、その他にはモクダチバナ、シラタマカズラ、クワズイモなど200種類近くの亜熱帯性の植物が生い茂った独特の植生となっています。こうした植物群落は「枇榔島亜熱帯性植物群落」として特別天然記念物に指定されおり、1921年（大正10年）



枇榔島の全景



上陸時の島の様子

3月3日に国の天然記念物となり、1956年（昭和31年）7月19日に文化財保護法による特別指定を受けました。さらに、島内の中腹部には和銅年間に創建されたと伝わる「枇榔神社」があります。また、第二次世界大戦末期に、オリンピック作戦としてアメリカ軍の南九州への上陸作戦が志布志湾などに対して計画されており、これを察知した日本軍により防衛陣地が築かれ、島内には10cmカノン砲2門基礎や歩兵部隊が配置され建設された塹壕が残っています。

枇榔島は、多種多様な植物群落で構成されていますが、

移入種であるトウチク（唐竹【中国南部・台湾原産の多年生常緑竹であり造園業界ではダイミヨウチク（大名竹）と称されている】）が侵入したことから、平成6年から植生管理（トウチク伐採）会議を当署・文化庁・鹿児島県・志布志市の構成メンバーにより調査及び対策方法の検討を行い、平成15年よりトウチクの駆除を行ってまいりました。

本年度においても11月18日に当署の職員外・学識経験者・鹿児島県教育庁文化財課職員・志布志市市役所職員により調査を実施しましたが、移入種であるトウチクは発見できませんでした。



【沖繩森林管理署・西表森林生態系保全センター】

希少野生動物植物の密猟・盗掘防止夜間パトロールについては、広報九州9月号（No.1795）の3ページでも掲載しましたが、西表島はこの時期、特定の昆虫を求め沢山の昆虫採集者が来島し主に夜間に入林しています。夜間、



環境省職員と合同で普及啓発



入林者に説明する職員

森の中からヘッドライトなどの光が差すこともこの時期は希ではありません。

所定の手続きを経て入林される採集者が大半ではあるものの、目的の昆虫が高額で売買されるケースもあり、一部の入林者による過剰な採取や昆虫以外の西表島の希少な動物を持ち帰る傾向もあり、過去には、昆虫採集のために立木等を損傷する行為も発見されていることから、昨年度から環境省、竹富町、八重山警察署、沖繩森林管理署、西表森林生態系保全センターが連携し、この時期は一定期間の夜間パトロールを実施しています。

今年度も10月15日から11月2日までの約3週間、毎日、主要なポイントでの合同及び各機関の日替わりによる夜間パトロールを実施し、普及啓発活動として入林者に対して所定の手続きの説明、安全に対する注意喚起及びイリオモテヤマネコのロードキル防止等の注意喚起もあわせて行いました。また、今年度は抑止力効果の向上を目的にパトロール実施直前に主催である環境省西表自然保護官事務所から地元紙へのプレスリリースを実施し、10月15日のパトロールの様子が地元紙に掲載されました。

今後も密猟・盗掘の防止と普及啓発のために定期的に関係機関合同のパトロールが行われる予定で、沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センターとともに引き続き積極的に協力していく予定です。

雲仙普賢岳・平成新山で防災登山

巨大な柱状溶岩の新たな崩壊を確認

【長崎森林管理署】

11月15日に九州大学や地元

自治体の防災担当者らが平成新山の山頂（1,483m）に登り現地状況を確認する。この登山は、九州大学地震火山観測研究センターと島原市が主催し、雲仙普賢岳の噴火によって出来た不安定な溶岩ドームの現状を確認するために定期的に行われているものです。

長崎森林管理署からは高木敏署長をはじめ、3名の職員が参加しました。当日は、地元自治体や警察・消防等の防災担当者など91名が、高さ1,080mの仁田峠を出発、普段は立入が禁止されている警戒区域に入り、溶岩が固まり割れて出来た不安定な岩石を



正面に普賢岳と平成新山

乗り越え、溶岩ドームの様子を観察しました。

山頂には、地下から溶岩ドームを突き破って出てきた柱状の溶岩がいくつもあり、なかには、茶色っぽく腐つてもろくなり、今年夏に新たに崩れ



溶岩ドームを登る参加者と眼下に普賢岳



溶岩ドームを突き破って出た岩尖

た場所も確認されました。また、九州大学地震火山観測研究センターからは、山頂の東側の斜面には溶岩の堆積物があり、大きな地震や大雨で大規模に崩落すれば、最悪の場合、有明海まで到達する恐れがあるとの話がありました。往復7時間のハードな行程でしたが、好天にも恵まれ、神宿る山「お普賢さん」の核心とも言うべき溶岩ドーム山頂から望む島原半島や熊本平野は格別でした。

治山現場にて安全パトロールを実施

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】

11月10日、九州林業土木協会大分支部主催（支部長：小倉建設（株）代表取締役 永吉陽一）により、大分森林管理署管内で実行中の「鶴見嶽治山工事（中約3溪）」の現場

において、小倉建設（株）、清川産業（株）、九州緑化施設（株）、大政建設（株）、（株）梶原組、（株）山崎産業の各社及び大分森林管理署、大分西部森林管



工事担当者から説明を受ける参加者

理署から関係職員の総勢24名が参加して実施されました。はじめに、同支部事務局長（清川産業（株）代表取締役 江藤龍治）から「日頃から安全管理及び対策は実施していますが、参加された皆さんの意見等を踏まえ更なる安全対策につなげていきたい」と挨拶がありました。

つづいて、両森林管理署を代表して猪島明久大分森林管理署長から「治山事業において重大災害が発生したことを踏まえ再発防止はもちろん、類似災害の未然防止に努めていただくようお願いいたします。また、本日の安全パトロールを契機として、更なる安全意



工事現場で安全パトロールを実施

識の向上につながることを期待します」と挨拶があり、その後チェック項目に基づき安全パトロールを実施しました。安全パトロール後の意見交換では、「作業者の目線の高さに安全看板を設置してはどうか」、「転落防止看板は増設した方がよい」、「救急車等を要請する際、速やかに現在位置を伝えられるよう現場事務所等見やすい場所に緯度経度を表示してはどうか」「通勤退勤時の安全運転について」など様々な意見が出され、労働災害の未然防止に取り組んでいくことを確認し有意義な安全パトロールとなりました。

労働安全衛生確保対策 連絡協議会を開催

【鹿児島森林管理署】

当署における請負事業者等の労働安全確保については、発注者の立場から契約時、監督時、安全パトロール時など機会ある毎に労働災害防止等についての注意喚起を行っているところであります。

今般、労働災害防止に向けた取り組みを強化する観点から、11月11日に鹿児島、加治木労働基準監督署と鹿児島、北薩、屋久島森林管理署の3



請負現場で安全パトロールを実施

署合同による労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催し、請負事業箇所合同安全パトロール等を実施しました。

当日は、午前中に、日置市立和名国有林59林班で実施している誘導伐・密着造林型請負事業の現場において労働基準監督署とパトロールを実施、工事の概要、進捗状況、安全対策について担当より説明を行い、午後は、会場を鹿児島森林管理署会議室へ移し協議会を行いました。

協議会では、労働基準監督署から、パトロール結果の講評、鹿児島、加治木労働基準監督署管内等における労働災害発生状況、特に林業にお



連絡協議会で講評と説明を受ける参加者

ける労働災害について事例等を踏まえ説明を受けました。この協議会を機に発注者の立場から請負事業者等の災害の未然防止に努めていくことを確認し、労働基準監督署へは引き続き、国有林の労働安全衛生管理について、継続的な指導、支援をお願いしました。

請負事業者に対し 労基署合同安全パ トロールを実施

【大分西部森林管理署】

11月18日、管内崩平国有林（九重町）の森林整備事業（保育間伐：活用型）請負事業箇所及び崩平治山工事箇所において請負事業者の安全パトロールを実施しました。

参加者は管内で木材生産事業と治山事業を現在実施している事業者等8社並びに日田労働基準監督署から参加頂き、約40名での開催となりました。森本明次長の司会進行等により日程が進められ、津脇晋嗣署長から「近年の重大災害発生している中、管内においても軽微な怪我の発生を聞い



工事現場で説明を受ける参加者

ている。軽微だからと油断してはいけぬ」と挨拶がありました。

その後、白坂進総括森林整備官から事業の概要、九州林産株式会社から安全の取組の説明があり、管内でもかかり木に関連した災害も見受けられることから、当日前にかかり木を事前に作り、全員が見守る中でのかかり木処理とチェーンソーによる伐倒作業を実施して、安全に対するアドバイスやかかり木処理や伐倒の際の技術的な意見交換が行われました。労働基準監督官からは、伐倒作業中での若年層の災害も増加傾向で教育・指導



伐倒等作業後は意見交換

働基準監督署長から「近年、大丈夫であろうという過信からやるべき事をやってない事での災害が多いので教育の重要性を今一度ご確認願いたい。点検実施のポイントとしては、自分の頭の中で現場事故を起こし、シミュレーションして時系列毎に考え整理することがコツ。年末年始に向けてルールを守り、無災害をお願いする」旨の講評を頂いて、日田労働基準監督署と当署の合同による安全パトロールを終りました。

参加者の感想として、イレギュラーな作業場面もあったことで作業に関し技術的なより安全な話も聞けて非常に参考になったとの意見等も頂戴しており、有意義な開催となりました。

当署管内からは災害を絶対に出さない決意のもと、引き続き安全指導等を徹底していくこととしています。

が必要なことやKY活動の実践を是非お願いしたい旨のコメントを頂きました。

次にコンクリート谷止工の治山現場に移動し、田上誠総括治山技術官から事業の概要、小倉建設株式会社からは、この現場は足元が非常に滑りやすい環境であるなどを含めた安全の取組の説明があり、前日から作業開始となった床掘作業を行ってもらい、参加者からは我が職場であればここに注意を払う等の意見交換がされ、労働基準監督官からは、重機の横転事故防止、急傾斜地での足場確認等を踏まえたコメントを頂きました。

最後に全体を通して日田労働

長崎森林管理署は、九州北



西部に位置し、平成2年の噴火により新たに生まれた平成新山を主峰とした島原半島やツシマヤマメコが生息する対馬、国境の島である男女群島を含む五島列島にある国有林を管理経営しています。

この国有林には、長崎県内の景勝地を始めとした多様性を有した森林があり、島嶼地域では、その地域にしかない貴重な野生動物植物が多く生息しています。

2022年は、長崎森林管理署管内の著名な山々を皆様で紹介するために、これまで職員が撮影してきた写真を使用して「2022年カレンダー」を作成しました。近く当署のホームページに掲載しますのので、活用されますようご案内します。



川上 政嗣さん

小学生まで三重県の田舎で育った。裏山に入り込んで、秘密基地ごっこをしたり、カブトムシを獲ったりした。自分の中での黄金時代である。今、振り返ってみると、

「今、思うこと」

変わらざる存在するのだが、以前よりずっと縁遠いものになった。話を聞くと、今に至るまでそうらしい。

山や林は生きているのだと改めて感じた。しよっちゅう、手を入れてあげないと、すぐ乱れてしまう。林業に従事する人の高齢化や社会の変化、経済的な側面から、私有林の健全な維持、育成は極めて難しくなっている。そんな中、日本の豊かな自然を支えている山林を守るためには国有林

それらの山林はしっかりと手入れされていた。荒れた感じはまるでなかった。たまに手入れをされているお年寄りを見かけた。中学生になり、都会の学校に進学し、実家にはたまにしか戻らなくなった。当然、山に入る機会も減った。数年後、弟たちの様子を見てみると、山にあまり入らなくなっていた。聞くと、マムシが増え、カブトムシも以前より獲れなくなったということだった。それから、裏山は相

の維持と発展は必要不可欠だと考える。国有林モニターになって、山林の維持と活用のためにみなさんがいかに尽力しておられるかがよくわかった。仕事をしているのでなかなか山には遊びに行けないが、モニターである現在はもちろん、任期終了後も国有林のサポーターとして少しでも貢献できればと考えている。

(福岡県福岡市在住)

監物台樹木園の 多様な植物



169 マルバグミ (グミ科)

暖かい地方の海岸地方に生えるつる常緑低木。枝には淡褐色の星状鱗片が密に分布し、新しい枝は長く伸びてツルグミと同じく逆向きの小枝があります。

沿海地方の海岸で大きなやぶを作って繁茂しています。私は計画課の施業編成係に所属していたころは五島へ、また対馬へと長期出張しました。

私の田舎は鹿児島県一伊



佐市」、鹿児島県で唯一つ海に面していない郡でした。海を知ったのは小学6年生の時、思わず海水をなめて塩分があることを確かめていました。そんなことで初めてマルバグミを見た時、丸い葉、銀色に輝く葉裏に驚きました。別名の「ウラギンツルグミ」はマルバグミをよく表していると思われました。

秋に葉腋に数個の花が短



枝の上に集まって咲きます。翌年の4〜5月ごろ長楕円形の果実は赤く熟れます。もちろん食べられません。熊本県植物誌にグミ類は5種類が記載されており、マルバグミ、ツルグミ、ナワシログミの3種類は常緑樹です。

森林インストラクター
安楽行雄



導入である。地帯えや下刈りを自動機械で行うことが出来る「〇〇もつとモット」は、先日メディアでも紹介され話題となっている。「新しい林業」

そろそろ今年の流行語大賞も発表になるころである。東京オリパラ、二刀流かな。ウツドシヨックもあるかも!!今年MLBア・リーグのMVPは大谷選手が受賞した。投手で9勝、打者でホームラン46本、100打点素晴らしい成績であった。野球少年のままベースボールを楽しんでいる姿や礼儀正しさに米国のファンからの賞賛されていた。彼の来年も期待以上の活躍が見られるのが待ち遠しい。

▼林業の世界でも二刀流の出番が待ち遠しい。林業界の二刀流を例えるなら素材生産業と造林事業を同時に行う。これって、一貫作業システムではないか。国有林では一貫作業システムが始まり、10年以上が経過している。最近は、民有林でも一貫作業システムを導入しているが、担い手不足等諸問題が山積しているように見える。新たな林業機械の

今年の森林・林業の交流発表大会は高校生5課題含む26課題が発表された。コロナ禍の中、発表に至るまで準備など大変ご苦労様でした。中でも大分西部署からの発表については、ベテランと中堅、そして若手とのチームの繋がりで発表であった。

▼ベテランを大事にし、中堅には叱咤し、若手には勇気を与えるといったのが、今年のNPB日本シリーズを制したヤクルト高津監督の恩師野村さんから学んだとされていた。チームを精神的に支えあった言葉「絶対大丈夫」を推した

い。

【お】